

益城町復興まちづくりセンター『にじいろ』は、 3周年を迎えました。

まちづくりの拠点となるような場所をつくろう。

そんな思いで2022年にオープンした復興まちづくりセンター『にじいろ』。

雨宿りをするもよし、休憩するもよし、待ち合わせに使うにもよし、誰かと集まったり語ったり、ちょっとしたイベントをするのにも使えて、そしていざというときには一時的な避難所にもなるように、といろいろなことを考えながら地域のみなさんと運営してきた3年間をまとめてみました。

コンセプト：まちのエントランス — 交流が生まれる場／広がる場

にじいろが備える3つの機能

1 まちのホワイエ	2 地域交流スタジオ	3 記憶のプロムナード
待ち合わせ、バス待ちや学習、フリースペース、情報交流の場として機能する	地域活動の展開、町内コミュニティ活動を助長するような取り組みを応援する	熊本地震の記憶や経験、教訓などを後世に伝えて継承していく展示スペース

施設名『にじいろ』の由来

- ・雨の後、虹が架かるように、2016年熊本地震からの復興への希望という想いが込められています。
- ・熊本地震の2016年は「(に)(じ)ゅう(い)ち(ろ)く」⇒「にじいろ」と呼ぶことができ、熊本地震を忘れないという記憶の継承の意味も込められています。

みんなが集う場所として、これまでの活動を一部まとめましたので開いてみてください。何度も行ったよという方も、一度も行ったことないという方もぜひ！



01

まちのホワイエ

「まちのホワイエ」は、いつでも利用できるフリースペースです。バスを待ったり、勉強したり、お昼を持ち寄って語らったり。今後はまちの情報発信にも力を入れ「人と情報の交流の核」となる空間づくりを行い、「にじいろらしい風景」を感じられる場づくりを目指します。



待ち合わせの時間まで本を読む

宿題終わらせる

ちよっとおしゃべり

ちよっと一局

ミーティング

02

地域交流スタジオ

「地域交流スタジオ」は、情報発信を軸に、町内コミュニティの充実や地域活動の展開を応援する場所です。地域の皆さんが日々の活動を広げ、交流や連携を深めながら新しい取り組みを進める場として、みんなで共に成長できる環境づくりを目指しています。



ex. ましき未来カフェ

多世代交流と自由な対話の場づくりをコンセプトに企画された「ましき未来カフェ」。哲学的なテーマからまちづくりに関することまで、毎回多様なテーマで語り合う場がもたれています。中学生がボランティアスタッフとして参加したり、民生委員さんや役場職員、地域づくりに関わる様々な立場の人が参加し、多世代・多様な交流と対話が生まれています。

03

震災記念公園

「震災記念公園」は、熊本地震の記憶を継承することと、地域の人々が日常的に過ごせる場所となることの2つの願いを込めてつくられました。町花の梅をかたどったモニュメントの隣で、地域イベント会場や子どもの遊び場として多くの人に親しまれています。



ex. 子育て支援イベント



にじいろでは、利用者の皆さんが館内や公園を上手に活用しながら、さまざまな活動に取り組まれています。特に子育て支援に関するイベントでは、館内のあたたかな雰囲気を活かしたりリラックスできる場づくりや、気候のよい季節には公園と連携した屋外企画も行っています。

ex. まちづくりスクール



「ましきまちづくりスクール」は、益城をく知る”ことから始まる、地域の方々と学びを深めるプログラムです。広い視点でまちを捉えるきっかけをつくり、持続的な事業や計画を柔軟に考えられる人材を育む学びの場です。地域内外の人とつながり、課題や取り組みを共有するコミュニティづくりにも取り組んでいます。



復興まちづくりセンター にじいろ



- ・公共施設の企画 + 運営
- ・復興まちづくりセンターのプログラム提案、方針整理



まちづくり協議会、自主防災組織と協働



共創まちづくりの一環として、まちづくり協議会や自主防災組織などの地域と連携した取り組みを実施しています。持続可能な地域づくりを目指し、各組織が目指す理想的な活動に向けた支援を心がけています。

中核拠点
熊本地震震災ミュージアム KIOKU

ましきソトアソビ



「ましきソトアソビ」は、益城町の自然の中で遊びながら学べる体験型プロジェクトです。豪雨災害を対象に、水の流れを体感する学びを取り入れた防災教育と川の生き物や水質を調べる環境学習を組み合わせたプログラムに地域と連携して取り組んでいます。

ましきまちづくりスクール

「ましきまちづくりスクール」は、益城を“よく知る”をテーマに、地域の方々と学びを深めるプログラムです。広い視点でまちを捉えるきっかけをつくり、持続的な事業や計画を柔軟に考えられる人材を育む学びの場です。地域内外の人とつながり、課題や取り組みを共有するコミュニティづくりにも取り組んでいます。



谷川展望広場計画・利活用

震災遺構周辺整備に伴い生まれた空間の利活用・マネジメントのサポートにも取り組んでいます。谷川展望広場ではその眺望を活かし、隣接自治体の花火大会を眺める納涼祭りを企画開催しました。開催には地元住民の方々にもご協力いただきました。地域に愛されうまく使いこなしてもらえようような広場となることを目指しています。



熊本地震 4.14 のつどい

熊本地震で亡くなられた方を偲び、その記憶や経験、教訓を次の世代へ伝えていくために、毎年4月14日に「熊本地震 4.14 のつどい」を益城町震災記念公園で開催しています。このつどいは、地域のみなさんと力を合わせながら、共につくり上げている大切な場です。

記憶の継承 みんなでツナグ



熊本地震の体験や学びを自分の言葉で語り伝え、各々の活動を労い、参加者同士が繋がることを目的としたプロジェクトです。3月と9月の年2回開催しています。現場に赴いて語ってもらうスタディツアーも開催するなど、「記憶の継承」に関わりやすくするための工夫もしています。



木山橋開通記念プロジェクト

熊本地震で被害を受け、架け替えられた木山橋の開通を記念し、「未来に向けて、橋を愛でる1日をつくる」をテーマに、地域のみなさんと500個の風船で橋を彩るイベントを開催しました。

情報発信、アーカイブ：にじいろ通信



- ・住民活動のデータベース化、広報事業への展開

中核拠点
県庁(防災センター)

にじいろでの共創を通じて資源を蓄積し、それを事業の企画・提案・実施によって地域に還元することを繰り返しながら「益城らしい風景」を共に創る



地域での取り組みや新たな関係性を
にじいろとつながる

- ・地域の取り組みの紹介
- ・事業の企画、提案、実施

にじいろに蓄積した情報や関係性を
地域に展開・還元する

- ・事業の企画、提案、実施
- ・地域の取り組みの支援

復興まちづくりセンター にじいろ

協働と共創

- ・公共事業
- ・記憶の継承/防災
- ・教育
- ・日常利用/イベント

にじいろに情報や関係性が集まり、
積み重ねられる

まちの様子を発信する
外部からの見学/視察

- ・地域ニーズの共有
- ・現場感の共有
- ・実績の共有

関係課との連携

益城町役場

連携と共有

町みんなの秋祭り



みんなの秋祭りのステージコンテンツの1つとして「町民の皆さんと町内事業者の接点や継続的なつながりをつくること」をコンセプトとし、秋祭りのためだけの景品を含む特別な抽選会を実施しました。



公共事業デザイン協議会運営



関係者の専門性を活かし、公共事業に関する協議会の運営にも関わっています。事業に関わるWSでは、計画の段階から参加し、地域の方々にわかりやすく伝える工夫を大切にしています。また、WSの成果が一度きりで終わらず、実際の事業に活かされるような体制づくりもサポートしています。